PRIMUS RS

BTE TECHNOLOGIES™

簡易操作マニュアル

Advanced Rehabilitation & Healthcare....

インターリハ株式会社
東京都北区上中里2−25−2
TEL03−5902−5677 FAX03−5902−5644

BTE TECHNOLOGIES™

PRIMUS RS

00－本マニュアルの概要

01－ウオームアップトレーニング用(Isotonic　Mode)

02－被験者のデーターベース設定

03－Isometric モードの設定と計測

04－isokinetic モードの設定と計測

05－Isotonic モードの設定と計測

06－レビュー／レポート

07－キャリブレーション

OPERATOR'S MANUAL

製造販売元及び輸入元

製造販売元　**BTE Technologies**
7455-L New Ridge Road
Hanover, Maryland 21076
Telefon +410-850-0333
Telefax +410-850-5244

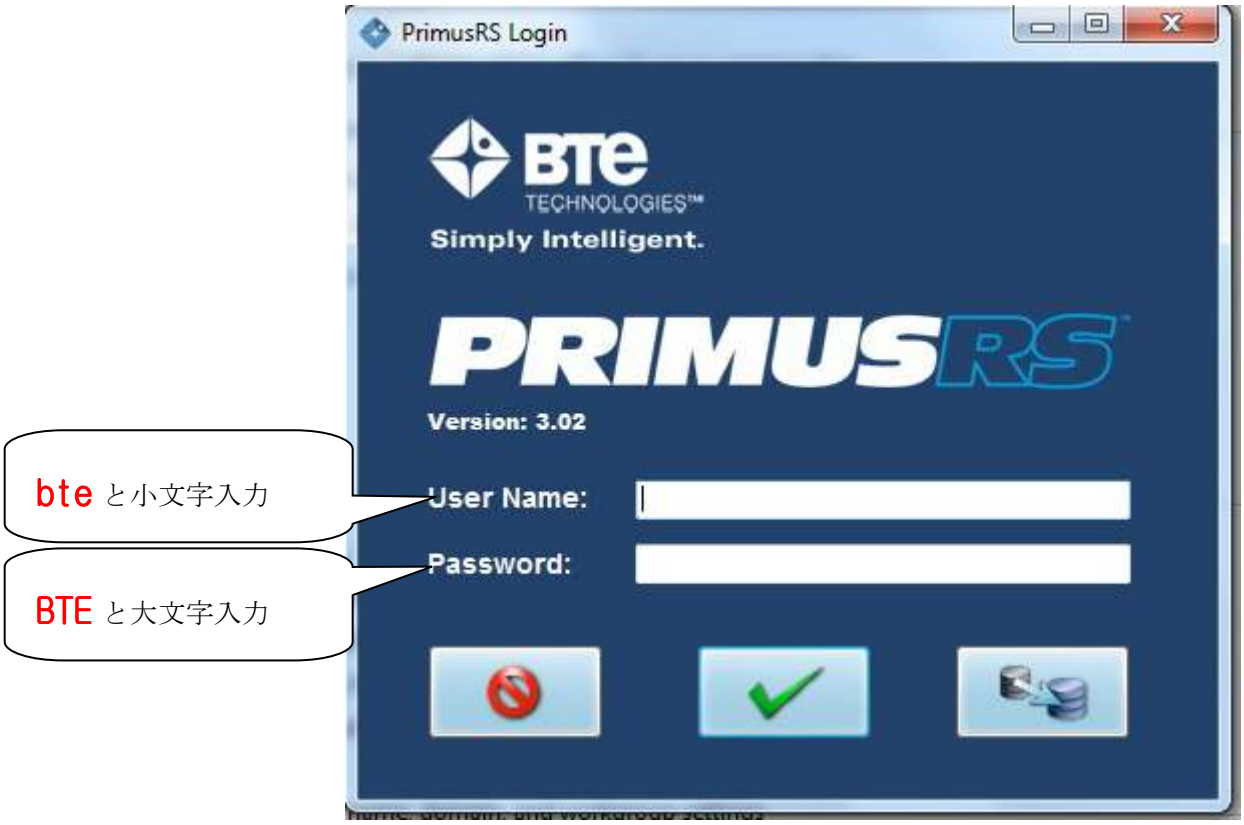
輸入販売元　インターリハ株式会社
東京都北区上中里**2-25-2**
TEL03-5902-5677
FAX03-5902-5644

00ー本マニュアルの概要

本マニュアルは簡易設定と操作を主としております、標準手順は取扱説明書からかなり省いております。
また、操作内容の詳細に関しては標準の日本語操作マニュアル又は英文のオリジナルマニュアルを参照ください。

マニュアル作成時のバージョンと各御施設に導入済みのシステムのバージョンの違いにより、若干表示される画面回りの情報が違う場合があります。

BTE システムの起動画面は下記のとおりです。

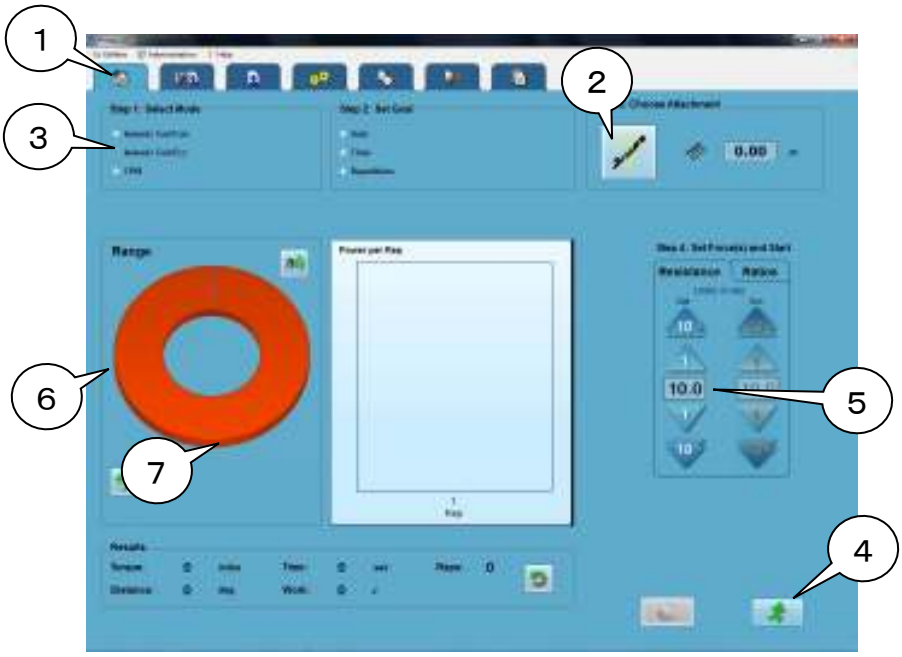


ユーザーネーム：bte とパスワード：BTE が入力されたら、 をクリックして、ソフトウエアを起動させます。

01ーウオームアップトレーニング用（Isotonic Mode）

Home 画面では初期状態で運動モードが **Isotonic モード**固定されており、各種のアタッチメントにてトレーニングが可能です。
但し、データーは保存できませんが画面左側のグラフは印刷のみ可能です。
システムの電源が投入後、BTE ソフトウエアが最初に起動する画面をいいます。

1）:Home 画面で有ること。



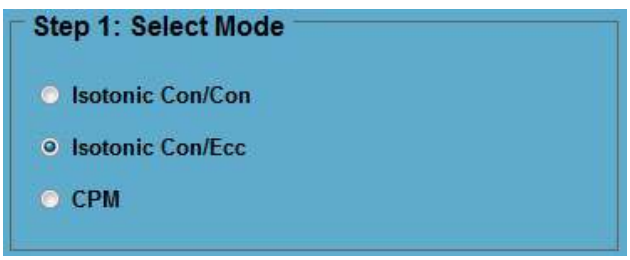
2）:ツールを選択、同時に部位も 選択します。

使用可能なアタッチメント一覧が表示されますので、タッチして選択します。

3）:Isotonic モード時の筋収縮形態を選択します。

＊ **ワイヤーを使用する場合は必ず、Concentric/Eccentric にチェックします。なぜなら、ワイヤーを引き出して自動的にスタート位置まで戻ります**

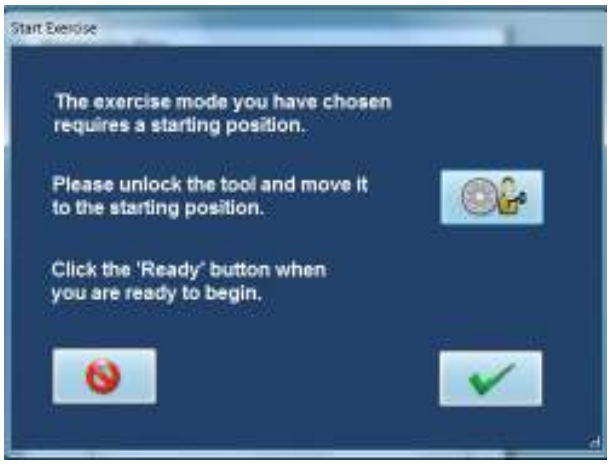
通常のアタッチメントは Con/Con でも OK です。



4）：使用するアタッチメントをヘッド軸に挿入し、確実にロックし、被験者のトレーニング部位に椅子（使用時のみ）、ワイヤー、グリップレバーなどを調整します。

アタッチメント装着設定例

5）：運動軸のポジション設定が良ければ、 を押します、画面は開始の kaki 為の“Ready“画面が表示しますので、クリックして開始します。



6）：運動と同時に中央のサークルに運動角度が黒く、円弧状に表示されます、と同時に負荷量をマニュアル調整する場合は(5)の数値を増減調整してください。

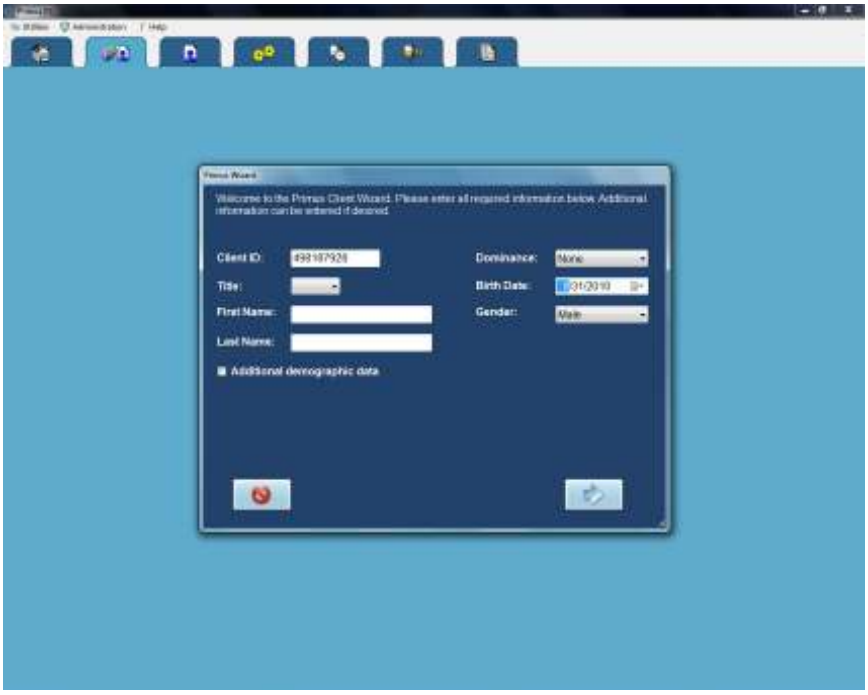
CCW,CW の各方向での負荷量の個別指定は、“Ctrl”キーを押しながら、現在表示されている数字“0.34”をタッチすると、“Sync”が外れ個別に数値指定できます。

02ー被験者のデーターベース設定

各種の計測データーを保存、レポート出力などを行う場合は必ず、被験者のデーターベースを作成してください。

1）“Patient Records”をクリックします

2）右記画面で被験者情報を入力します



3）被験者入力画面が表示されますので必要な箇所を全て埋めます。

被験者 ID（カルテ番号、学生番号等重ならない）
被験者氏名（氏、名）、患側、生年月日（日／月／年）性別の入力とチェックをします

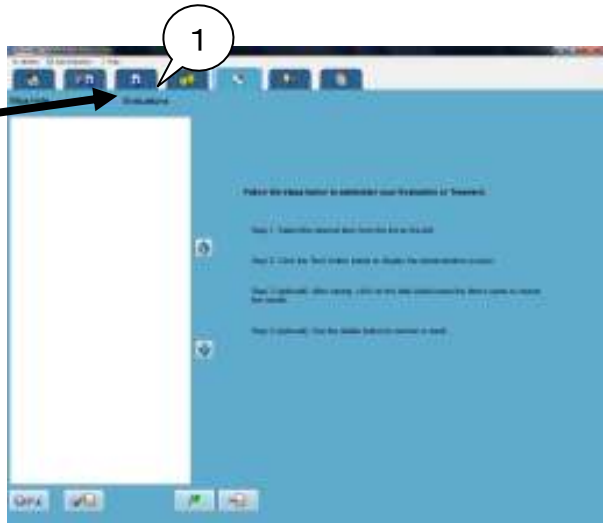
4）入力確定後に をクリックします。

以上で被験者情報入力が完了しました。（詳細情報入力画面は別途入力可能）

03－Isometric モードの設定と計測

既に被験者情報は入力済みであるとします。

1）右記画面の をクリックします。



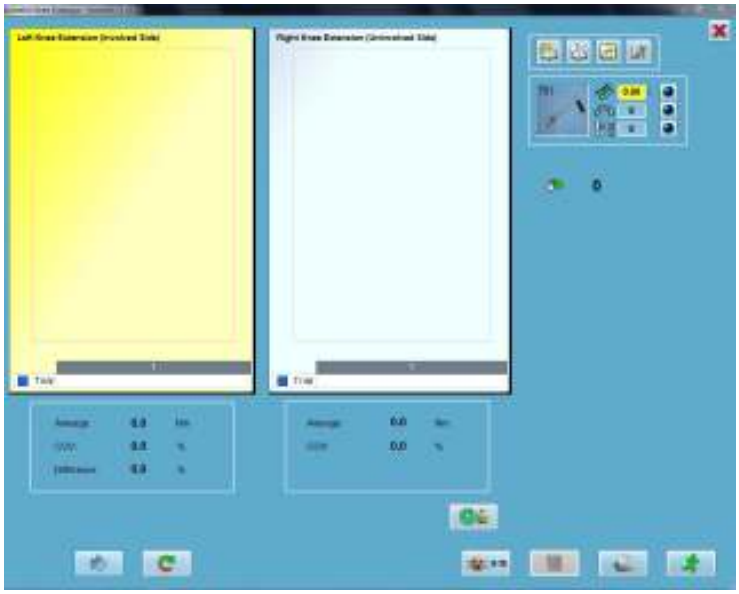
運動モードを設定する画面を表示する為に、
画面左下の を選択します。

2）右記のように表示されますので、画面内部の設定をチェック、クリック及び部位を選択します。

3）設定完了後は右下の をクリックします。

椅子に被験者を座らせ、膝軸に合わせて、アタッチメントを装着します。

4）右記画面の計測は色が黄色になっている方から計測開始です。
　タッチパネルで順番は自由に変更できます。



5）計測開始は をクリックします。

6）必要な回数分を計測し、反対部位への移行は
反対側のグラフをタッチします。

7）ロック解除スィッチ をクリックします。

8）画面にはロック解除のカウントダウンが5秒間表示され、アームがフリーになります

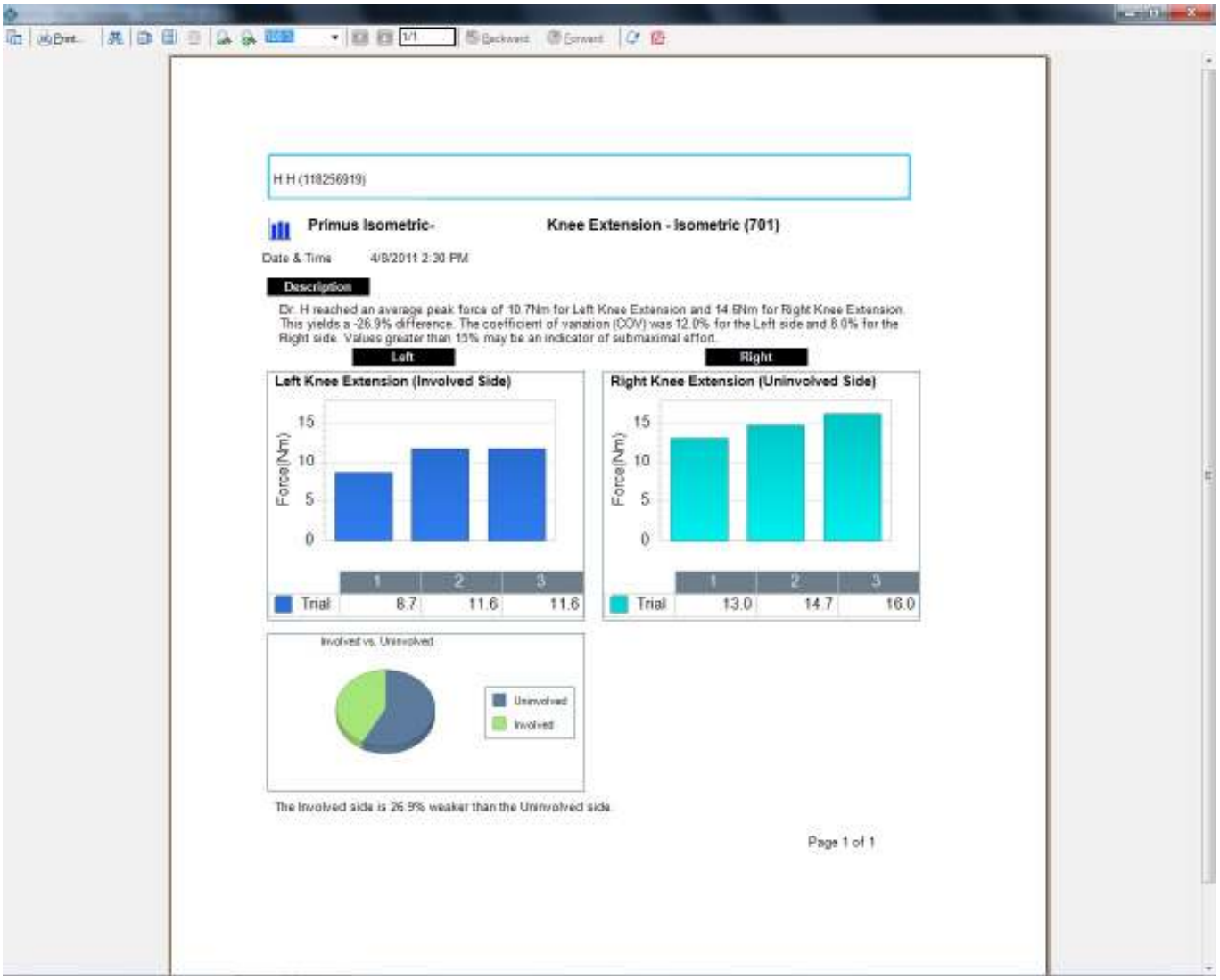
9）ロックが解除されましたら、被験者を椅子ごと、反転させ、軸を合わせて、必要な
膝角度で維持しておき をクリックして固定させます。

10）反対側の計測が完了しましたら、印刷及びデーターを
保存します。

計測データーの保存です

計測データーの印刷です。

をクリックすると、画面には下記のように表示されます。

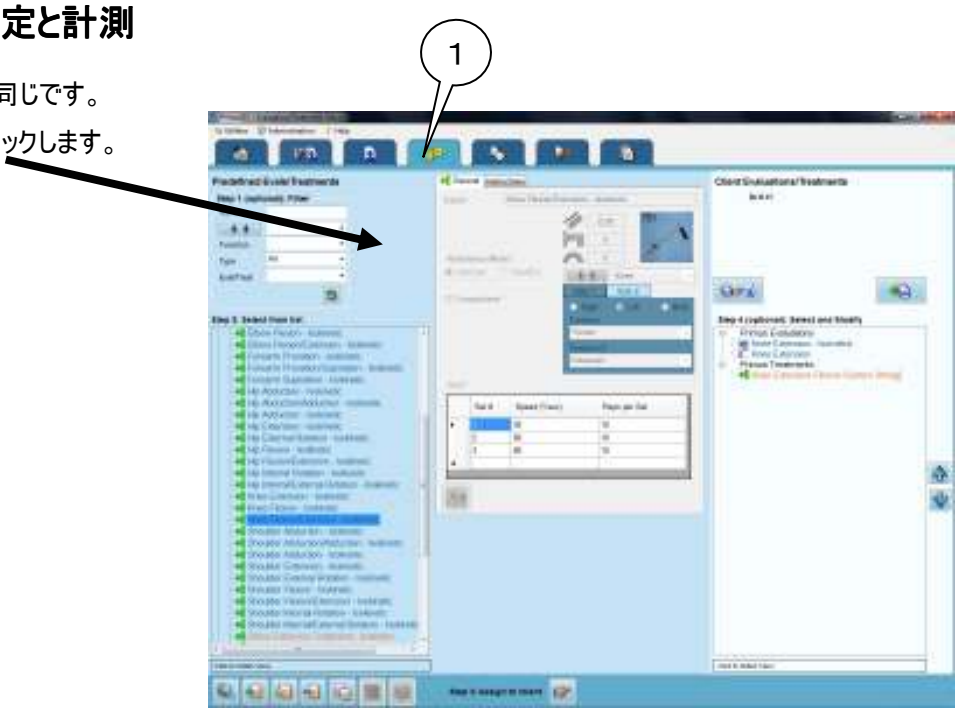


以上でIsometricモード膝の伸展計測手順です。

04－isokinetic モードの設定と計測

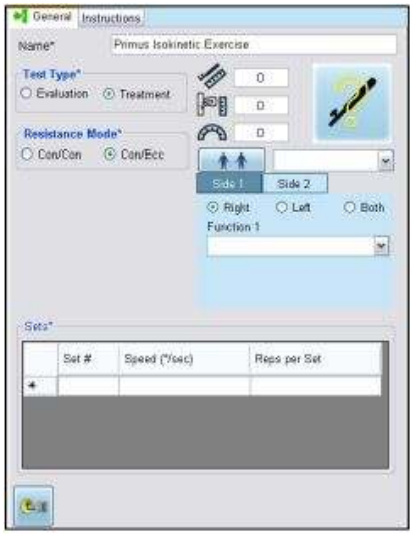
基本的には“Isometoric” モードと同じです。

1）右記画面の“Evaluation ”をクリックします。



2）右記のように Knee Flexion/Extension - Isokinetic を選択し、画面下部の をクリックします。
選択されたプロトコルは右側に表示されます。

3）計測プロトコル変更は をクリックし、右記画面が表示されます。



画面内の上部から計測プロトコル名の入力

テストタイプ：評価とトリートメントの選択

運動モード：Con/Con 又は Con/Ecc の選択

アタッチメントの選択
（計測に必要なアタッチメントを選びます）

アタッチメントレバーの長さ

ワークヘッドの高さ

ワークヘッドの角度

新規テンプレート作成や変更及び必要な角速度／回数などプロトコル設定と部位、アタッチメント、筋収縮運動を選択し保存します。

5）保存されると選択されると表示が戻りますので“**Save**”をクリックして表枠組み段に表示されます。

以上で新規プロトコルの呼び出し、部位選択、サイド、セーブまで完了しました。

詳細は取扱説明書を参照してください。

6）被験者の計測部位を各種選択されたアタッチメントをワークヘッドに
装着し、運動軸を設定します。

7）画面上横の をクリックします。

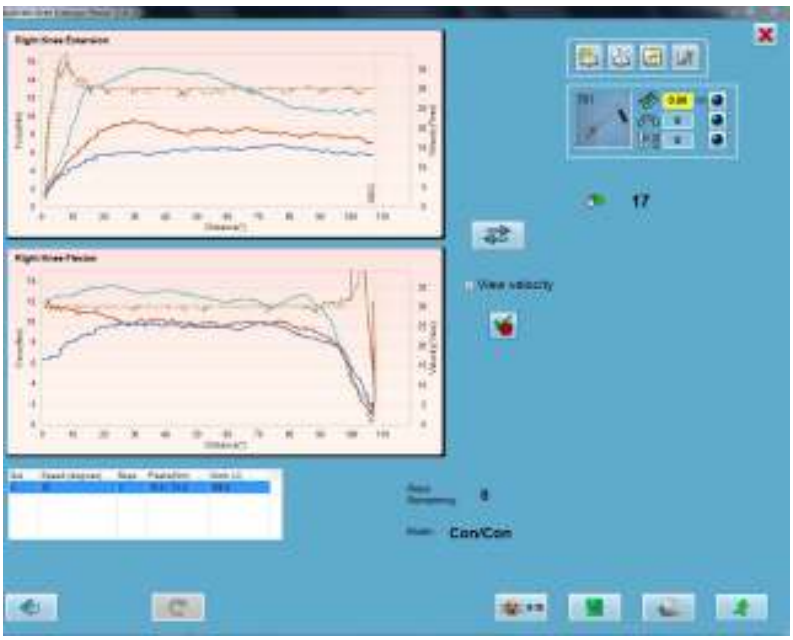
8）画面下にある をクリックします。

9）画面は右記のように計測開始前の表示に変わりますので、
右下のスタートアイコンをクリックします。

10）画面にはROM（関節可動域設定）表示がされます。
次に進む場合は**“OK”**をクリックします。
最初にBeging（開始可動域）:
終了 End（終了可動域）:
をクリックします。
その後緑色をクリックすると、開始位置まで
自動的に戻ります。

11）可動域設定が完了しましたら、そのまま、

をクリックします。



12）指定回数分の片側計測が完了したら、被験者のアタッチメントを椅子ごと反転させます。

13）反対側へのROM設定を行いますので、

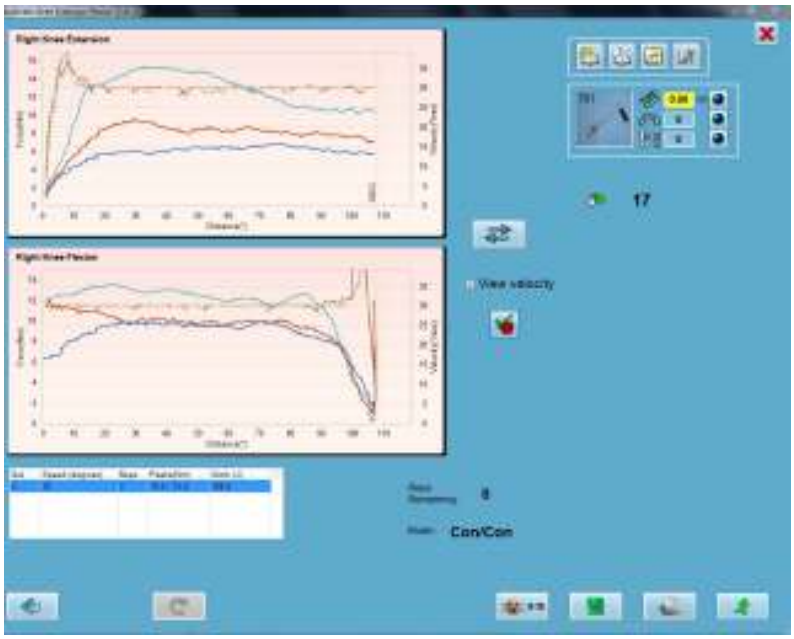
をクリックします。

14）画面にはアタッチメントロックを解除する表示がされます。

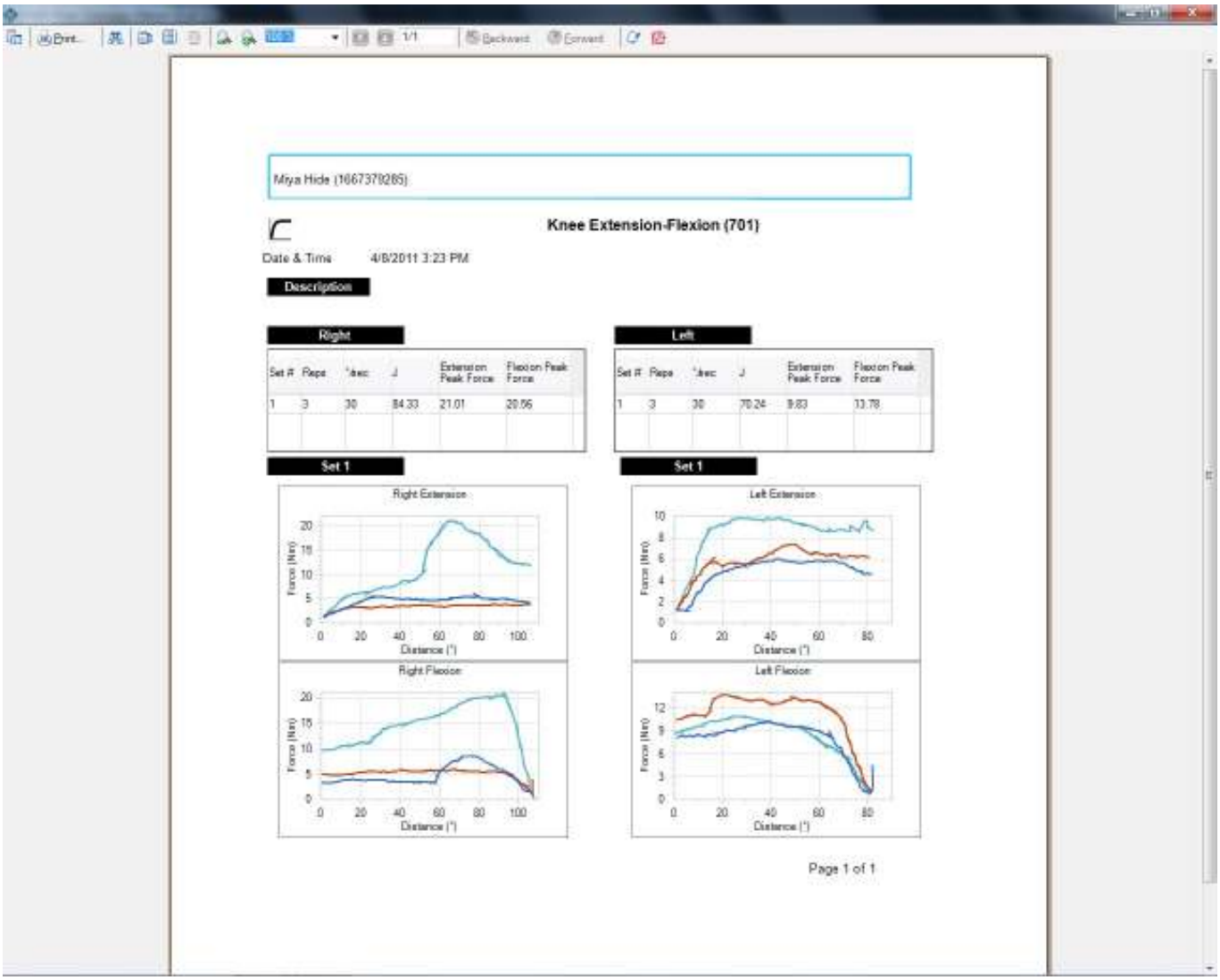
15）再度部位を反転させてから、ROM設定を行いますので、下記の表示従って進めます。

16）設定が完了し計測画面が表示されますので、指定された回数の運動を指示します。

をクリックします。



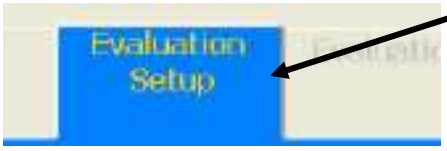
17）運動が完了すると、 をクリックして保存します、印刷は をクリックします。

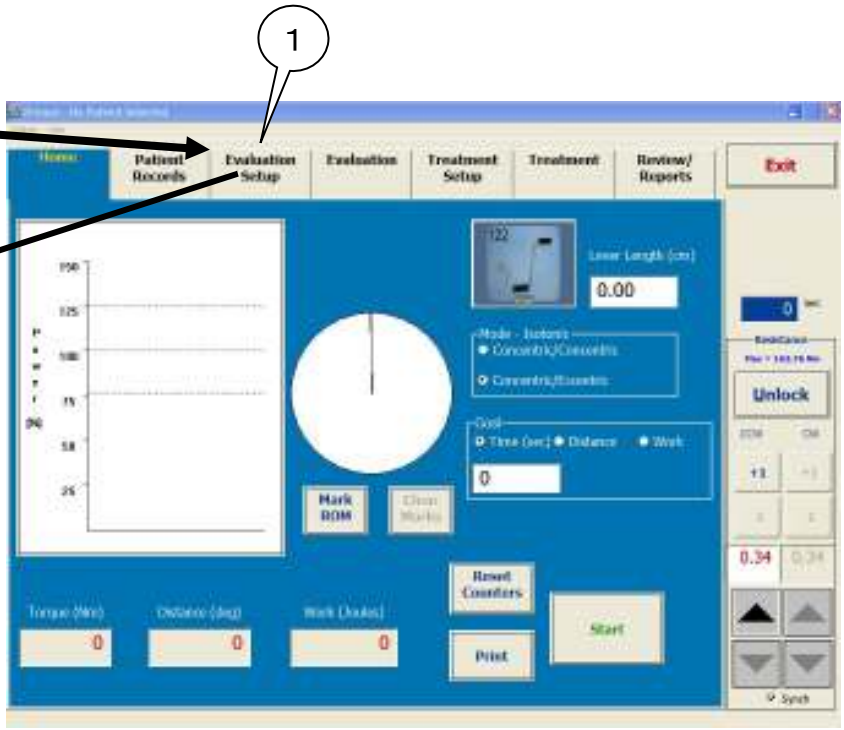


05－Isotonic モードの設定と計測

既に被験者情報は入力済みであるとします。

1）右記画面の“Evaluation Setup”をクリックします。





2）右記のように“Isometric”モードが表示されますので、
画面下部の“New”をクリックします。

3）画面にはテンプレート選択ウイザードが表示されますので、
既存テンプレートと新規テンプレート作成が選択できます。
テンプレートには
上段は既存テンプレートで標準的部位とプロトコルが保存
下段は新規テンプレート作成、自由に作成可能です。

4）新規テンプレート作成を選択してが表示されますので、モードを切り替えます、右側の“Isotonic”をクリックして、同様に必要な負荷量／回数などプロトコル設定と部位、アタッチメント、筋収縮運動を選択し“OK”をクリックします。

5）選択されると表示が戻りますので“Save”をクリックして
表枠組み段に表示されます。

以上で既存プロトコルの呼び出し、部位選択、サイド、セーブまで完了しました。

詳細は取扱説明書を参照してください。

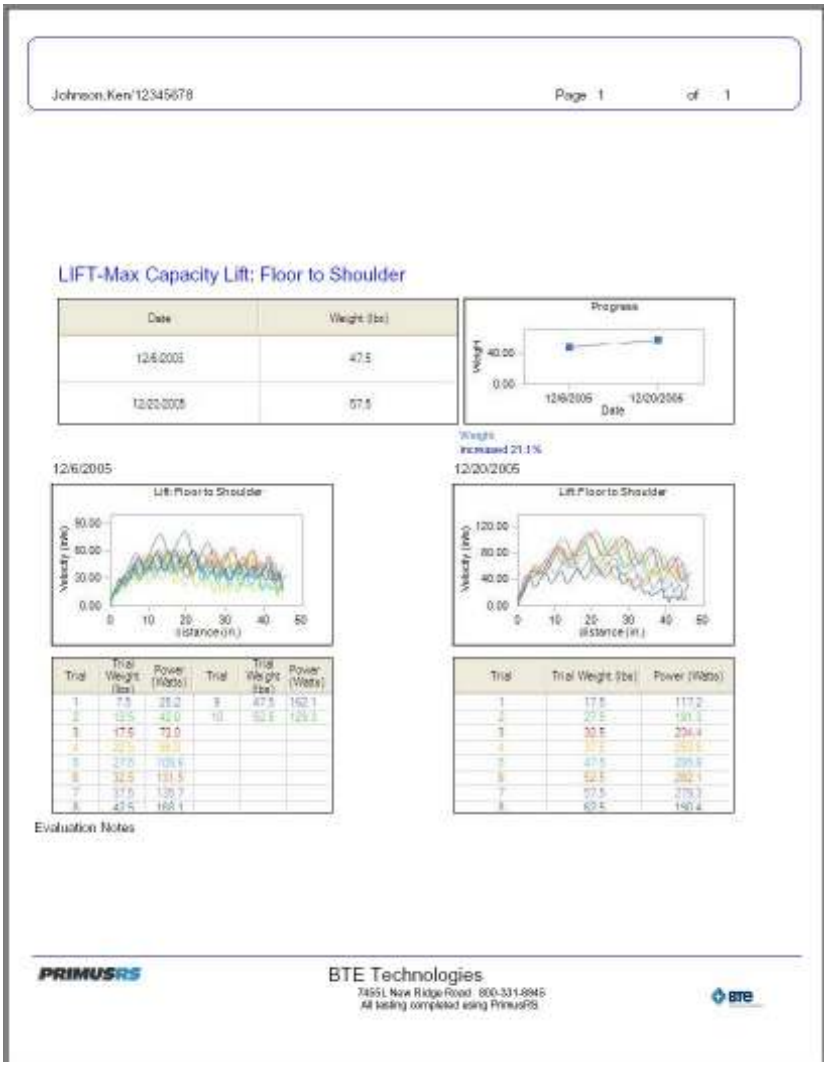
6）被験者の計測部位を各種選択されたアタッチメントをワークヘッドに
　装着し、運動軸を設定します。

7）画面を“Evaluation Setup”横の“Evaluation”をクリックします。

8)画面にはワークヘッドの注意表示が赤く表示されます。
　次に進む場合は“OK”をクリックします。

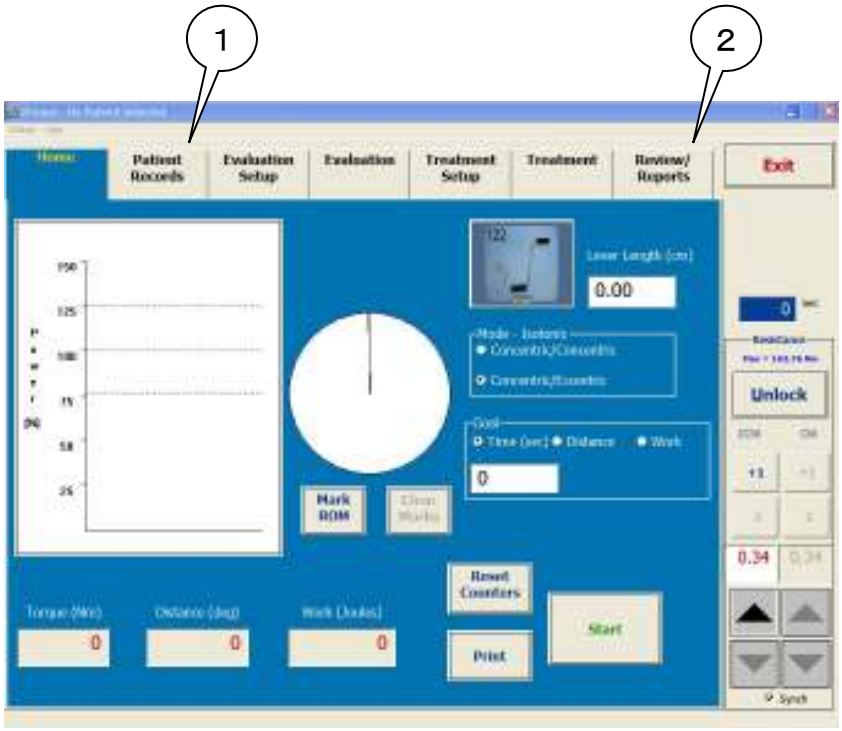
9）計測画面が表示され、アタッチメントを計測位置まで
　動かして止めます、“Start”をクリックと同時に被験者に筋力を発揮するように指示します。
　経時的に出力が変動する波形です。
　全ての計測が完了しましたら、画面下側にある“Save”をクリックしてデーターを保存します。
　計測データーが不良の場合は“Clear”で1波形づつ削除でき、取り直し可能です。

10)保存計測データー印刷を行う場合は“Print”をクリックします。
　出力印刷サンプル例



06ーレビュー／レポート

1） 過去に計測保存された被験者データーの印刷出力を行う場合は“Patient Records”をクリックし、呼び出したい被験者を選択します。



2） 画面上部右の“Review/Reports“をクリックします。
画面には計測データーが表示されていますので、必要なデーターをクリックして“Print“をクリックすると印刷のプレビュー画面になりますので確認後印刷してください。